

Citation: Martin-Hirsch PPL, Paraskevaidis E, Kitchener HC. Surgery for cervical intraepithelial neoplasia. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1999, Issue 3. Art. No.: CD001318. DOI: 10.1002/14651858.CD001318.
CRG名: Gynaecological Cancer

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 July 2004
Clib issue No.; N/U: 2009 issue 2, -

背景: 子宮頸部上皮内腫瘍は、局所切除または罹病率の低い切除手技によって治療される。治療の選択はこの腫瘍の重症度に基づく。

目的: 本レビューは、子宮頸部上皮内腫瘍に対する代替外科的治療の効果を評価することを目的とした。

検索戦略: Cochrane Gynaecological Cancer Group trials registerおよびMEDLINEを1997年7月まで検索した。
更新: 2004年7月にさらなる検索を行った。

選択基準: 子宮頸部上皮内腫瘍の女性を対象に、代替外科的治療に関するランダム化試験および準ランダム化試験。

データ収集と分析: 試験の質を評価し、2名のレビューアが独自にデータを抽出した。

主な結果: 28件の試験を含めた。7つの手術手技を様々な比較で調べた。レーザー切除術とループ式切除との間の差を除き、本腫瘍の根絶に手術手技の間で有意差は示されなかった。これはランダム化の質が疑わしい1件の試験に基づくものであった。移行帯の大きいループ式切除は最も信頼性のある組織標本を提供し、罹病率が最も少ないと考えられる。罹病率はレーザー円錐切除の場合よりも低かったが、5件の試験はいずれのアウトカムについてのデータを必ずしも提供しているわけではなかった。レーザー切除と比較して、罹病率への効果を評価するにはデータが十分ではなかった。

レビューアの結論: エビデンスは、子宮頸部上皮内腫瘍の治療に明らかに優れた手術手技がないことを示唆している。

(監訳 曾根 正好)
翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。